

# 2020年度東京都立高校一般入試

# 社会 入試分析

～入試ではこう出る!!～

## 【出題内容】

全20問 1問5点

分野別出題数 地理:7問・歴史:5問・公民:8問

歴史分野の出題が少なく比較的易しい一方で、中1～中2で学習する地理と中3で学習する公民に重点が置かれており、分野をまたいだ融合問題や、初見の資料を分析するために知識を活用する問題もあって、暗記では太刀打ちできない。

中3になっても中1・中2の知識をしっかり覚えておくことが大切だ。

## ＜注意すべき出題形式＞

(1) 地図や資料の読み取り問題

ほぼすべての問題で地図や、図表・グラフなどの資料の読み取りがある。どのような意図で資料が与えられているのかを考え、必要な部分を正確に読み取る分析力が必要だ。

(2) 完全解答を求める問題

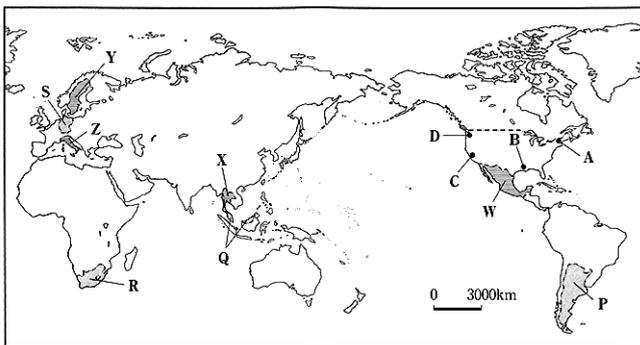
複数回答すべてを正解しなければならない完全解答を求める問題が合計9問。難度は昨年並み。

(3) 資料の分析記述

資料の数値を割合に直す計算をしてから考える問題が登場、難問となった。あらゆる記述問題に取り組む対策がある。

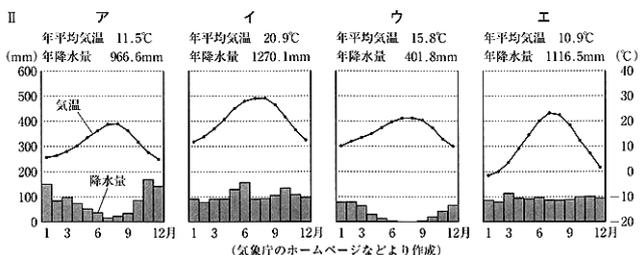
## 実際の問題にチャレンジ!

2(中1で学習した内容: 世界地理)



【問1】 次のⅠの文章は、略地図中のA～Dのいずれかの都市の様子についてまとめたものである。Ⅱのグラフは、A～Dのいずれかの都市の、年平均気温と年降水量及び各月の平均気温と降水量を示したものである。Ⅰの文章で述べている都市に当てはまるのは、略地図中のA～Dのうちのどれか。また、その都市のグラフに当てはまるのは、ⅡのA～Eのうちのどれか。

Ⅰ サンベルト北限付近に位置し、冬季は温暖で湿潤だが、夏季は乾燥し、寒流の影響で高温にならず、一年を通して過ごしやすい。周辺には1885年に大学が設立され、1950年代から半導体の生産が始まり、情報分野で世界的な企業が成長し、現在も世界各国から研究者が集まっている。



4(中2で学習した内容: 中世日本の文化史)

【問2】 屋内の装飾の材料にも紙が使われ始め、我が国独自の住宅様式の確立につながっていった。とあるが、次のⅠの略年表は、鎌倉時代から江戸時代にかけての、我が国の屋内の装飾に関する主な出来事についてまとめたものである。Ⅱの略地図中のA～Dは、我が国の主な建築物の所在地を示したものである。Ⅲの文は、ある時期に建てられた建築物について述べたものである。Ⅲの文で述べている建築物が建てられた時期に当てはまるのは、Ⅰの略年表中のA～Eの時期のうちではどれか。また、Ⅲの文で述べている建築物の所在地に当てはまるのは、Ⅱの略地図中のA～Dのうちのどれか。

Ⅰ	西暦	我が国の屋内の装飾に関する主な出来事	Ⅱ
	1212	●鴨長明が「方丈記」の中で、障子の存在を記した。	ア
	1351	●藤原隆昌と父が「葛城絵」の中で、襖に絵を描く様子を表した。	イ
	1574	●織田信長が主簿藤原に「洛中洛外図屏風」を贈った。	ウ
	1626	●狩野探幽が二条城の障壁画を描いた。	エ
	1688	●屏風の売買の様子を記した井原西鶴の「日本永代巻」が刊行された。	オ

Ⅲ 慈照寺にある東求堂同仁齋には、障子や襖といった紙を用いた道具が取り入れられ、我が国の和室の原点と言われる書院造の部屋が造られた。

中学校の定期テストでも定番の内容。中3になっても忘れずにしっかり覚えていてくれたら、確実に正解できる問題だ。

2の「サンベルト」はアメリカ合衆国の北緯37度以南の地域。「北限」で「情報分野で世界的な企業が成長」とあるので、シリコンバレーを中心としたサンフランシスコのベイエリアだとわかる。

4の「慈照寺」は銀閣のことで、ここにある「東求堂」の「同仁齋」とは、室町幕府の8代将軍足利義政が書齋として利用した四畳半の間で、違棚、床の間、付文机を備えた書院造が有名だ。